

伊原青々園 いはら せいごん 小説家、劇作家、演劇史家、文學博士。明治二
 年四月、二十四日出雲國生れ、昭和十六年七月、二十六日没（八十一歳）。
 本名敏郎。筆名のきば、めさくさの翁、一新聞記者、可実生、散見生、
 滑稽浪、遊面生、灘一嶋、無名氏、猿飛助、秋茄子、管見生、銀爾生、
 鐵筆生、長者丸、開眼生、青々園主人、青大通、SS、S・S等。第
 一高等學校中退。コトニ新報、京都新聞の劇評擔當。明治二十年
 後藤宙外、徳村抱月等と雜誌「新著月刊」を、二十二年三月「こと共
 い」歌舞伎」を創刊。また坪内逍遙の著述を國劇研究の當り、その基
 礎を築いた。

著書「風雲集」抱月（宙外合著、明治二十二年四月、二十八年春陽堂）、「探
 實

詰生首止太郎（前編）」（あきば名、明治二十二年七月九日、東京大川
 屋書店）、「近松之研究」（合著、坪内逍遙、網島梁川編、明治二十二年十一月

十五日春陽堂）、「後の為朝」全二冊（前編、明治二十五年十月五日、
 後編、十一月、二十日大阪・駿々堂）、「日本演劇史」（上卷）二冊、全

一冊、明治二十七年二月十日早稻田大學出版部）、「新野崎村」（明
 治二十八年七月十五日有樂社）、「影法師」（明治二十九年四月十日

春陽堂）、「睡玉集」（後藤宙外共編、明治二十九年九月十九日春陽
 堂）、「夫々のため」全二冊（前篇、明治四十年五月十五日、後篇、七

月十五日春陽堂）、「若狭物語」（明治四十一年六月十五日春陽堂）、

新講談「新桂川（前編）」（明治四十一年七月、一
 十四日畫報社）、「大將の家」（大正二年九月十

八日春陽堂）、「歌味
 研究大江戸」（合著、江戸研究

會編、大正二年十月、二十四日大屋書房）、「日本戲曲史講話」（西

會編、大正二年十月、二十四日大屋書房）、「日本戲曲史講話」（西

會編、大正二年十月、二十四日大屋書房）、「日本戲曲史講話」（西

會編、大正二年十月、二十四日大屋書房）、「日本戲曲史講話」（西

會編、大正二年十月、二十四日大屋書房）、「日本戲曲史講話」（西



會編、大正二年十月、二十四日大屋書房）、「日本戲曲史講話」（西

野淵平次合著、大正二年八月、二十五日早稻田文藝社編刊、文藝普及會
「早稻田文藝普及會講話叢書」）、
「火の玉小僧」(大正四年十一月一日大川屋書店)、
「ハムレット及びハムレットの研究」(合著、大正七年二月十五日富山房)、
「歌舞伎通」(昭和五年二月十日四六書院「通叢書」)、
「演劇談義」(昭和九年四月十八日岡倉書房)、
「遊苑しぎ櫻」(合著、昭和十一年十月二十日野木善二郎編刊)、
「團菊以後」(昭和十二年四月十八日相模書房)、
「續團菊以後」(昭和十二年七月十日相模書房)、
「伊原青々園集」(利倉幸一解説、昭和十六年十一月十八日坂上書院「昭和演劇新書」)、
「歌舞伎年表」全八卷(河竹案後吉田映一編集校訂、昭和二十一年八月二十日、二十八年五月二十一日岩波書店)、
「風雲集」(島村抱月合著、川副國基解説、昭和五十年二月一日日本近代文学館「近代文学研究資料叢書」)等。
文献、利倉幸一著「青々園・伊原敏郎」(昭和十七年七月、二十六年伊原榮刊)等。

